


豊橋技術科学大学長 殿

平成 8 年 2 月 26 日

審査委員長 中村 俊六 

論文審査及び学力の確認の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	九津見生哲	報告番号	第 86 号
申請学位	博士(工学)	専攻名	総合エネルギー工学
論文題目	天竜川上流域の土砂流出環境と河道特性の長期的変化に関する研究		
公開審査会の日	平成 8 年 2 月 19 日		
論文審査の期間	平成 8 年 1 月 24 日～平成 8 年 2 月 26 日	論文審査の結果	合格
学力の確認の日	平成 8 年 2 月 19 日	学力の確認の結果	合格

論文内容の要旨

本論文は、大規模災害の発生を契機として復旧・改修・整備工事が進展し、その結果、土砂流送環境や生態環境などが著しく変化した河川の典型例として天竜川をとりあげ、そうした変化を長期的・広域的視野で把握・検討したものである。

すなわち、第1章で本研究の背景と目的を明確にし、第2章で対象流域の特性と昭和36年6月災害の概要を示したのち、第3章では、土砂の生産源から下流河道に至る土砂流送過程の実態をその構成領域ごとに明らかにしている。第4章では、流域全体を各領域単位に細分化したうえで水系全体の土砂移動を追跡する土砂動態モデルを作成し、その妥当性を検証している。第5章では、狭窄部と河道内氾濫原とが連続する河道での河床変動計算のために準2次元非平衡浮遊砂量モデルを開発し、天竜川本川中流への適用を試みている。第6章では、昭和36年6月災害から最近に至る種々の河道特性の変化を横断測量データと不等流計算を用いて集約し、治水安全度と魚類生息環境の評価を試みている。第7章は本研究の結論である。





審査結果の要旨

我国においては、集中豪雨による流域内の荒廃や大規模災害の発生を契機として、砂防施設や治水ダムの整備、あるいは河道改修などが急速に進展する場合が多く、その結果、流域内の流送土砂環境、河道特性、魚類の生息環境などの変化が、自然変化よりも速いペースで広範かつ大規模に生じることになるが、従来の河道計画ではこうした変化が必ずしも十分に考慮されているわけではなく、長期的・広域的視野に立った現象の解明が河川工学における重要課題の一つとなっている。

本研究はその課題に真っ正面から取り組んだものであり、その結果、(1)山腹の崩壊による土砂の生産から下流河道の河床変動に至る過程の細部を、長期的かつ広域的見地から明らかにするとともに、(2)水系全体の土砂移動のシミュレーションを可能にし、(3)治水安全度や生態環境の長期的変化において天然の狭窄部が果たす役割を示すなど、砂防・河川・環境工学上の貴重な成果を提供している。

以上のことから、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

中村 俊六 北尾 高 嶺 丸田 敏 廣 青木 伸 一 

印

印

(注) 論文審査の結果及び学力の確認の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。